

# 立憲民主党

The Constitutional Democratic Party of Japan

## 区政レポート

発行者  
練馬区豊玉北6-12-1  
練馬区役所西庁舎6階  
会派名  
練馬区議会立憲民主党  
03-3999-3111  
内線7681~7683

### 特集「ペット同行避難は可能? in練馬区」セミナー報告

2月19日 練馬区獣医師会の協力をいただき、「ペット同行避難」についてセミナーを開催した。練馬区の区民防災課より「区の動向避難の考え方」についての動画を視聴、練馬区獣医師会防災委員 栗原獣医師より「災害時の動物にとつての過ごし方や、避難拠点を利用する時の注意点や配慮点」等を学んだ。今回は、特集としてセミナー参加者からの質疑と獣医師の先生の回答を掲載した。

**質問** どの避難所でもペット同行避難は可能なのか、また、同伴避難は?

**答え** 練馬区の避難拠点では、人とペットは別々の場所になるのは決定事項。人とペットが一緒のスペースにいることが出来る同伴避難という考え方は不可能。「飼い主が一緒の方が静かにする。」等いかなる理由でも、ペットを人のいるエリアに連れていくことは出来ない。(図表参照)

**質問** では、動物が過ごす決まった場所はあるのか、また、一般の人の考え方は?

**答え** 区が設置する避難拠点で約100か所において、ペットの避

難場所は確保している。詳細は区の防災関係のHPの確認を。ただ拠点ごとに広さ・場所等も違う。また、ペットの同行避難に対する考え方は、各避難拠点間に温度差があり、ペット同行避難訓練に参加・見学して、避難拠点の運営者や出勤している区の職員に質問するのも良い。

参考) ペット同行避難の一般の人の認知度 —資料提供 練馬区獣医師会防災委員より—



**質問** 避難場所での動物たちは、どのように管理され、過ごすのか?

**答え** 区が設置する公共施設での避難拠点は、一律、人とペットは別々の場所となり、ペットの避難場所を数か所も設置できるほどの余裕はない。基本は何か所の場所を、犬・猫・その他といった感じで種別ごとにケージ等をまとめる形になる。大型犬は屋外に設置した鉄棒等があるスペースにてリードにつなぐことが基本となる。場所も、例

として、プールの更衣室・体育館わきの通路にブルーシートを張る、階段の踊り場スペースを確保する等、避難拠点ごとに違う。そして、ペットの世話は、飼い主が、全員ペットボランティアとして参加してもらい、各自でリーダーを決めて執り行う形になる。

**質問** 避難所にペットを連れていく際の持ち物やストレスなどへの配慮点は?

**答え** フード・水・常備薬・ペットシート・バスタオル等の敷物・食器・リード・首輪・ワクチン証明書・マイクロチップのIDの分かるものを持参。また避難拠点では基本的にキャリーケースやバリケンに入ってもらおうので、使用しているものを持参できればベスト。普段から、キャリーケースに自由に入出力出来るようにして、その中にいるときにおやつを与えるのも良い。

避難拠点に行くまでに、可能ならノミ取り等の処置を。また、割れたガラス片・がれき等でけがをしないように。

**質問** 同行避難できない場合、別の方法はあるのか?

**答え** 被害を受けていない親しい近所の方、被災していない地

## 白石けい子 プロフィール



1954年10月 東京都台東区御徒町育ち（昭和29年生）  
 1960年 練馬区貫井育ち、練馬区立練馬第二小学校・貫井中学校卒業  
 1973年 東京都立第四商業高等学校卒業  
 1975年 朝日生命保険相互会社退職 ※実業団バスケットボール部所属  
 1977年 東京都練馬高等保育学院卒業 ※保育士取得  
 1979年 中野区役所 保育園勤務退職  
 練馬区高松在住 4人の子育て中心の生活 犬と猫を飼い、現在 猫1匹  
 1994年 保育サービス事業を練馬区高松にて開業  
 1998年 ホームヘルパー2級（現 初任者研修）・社会福祉主事取得  
 2000年 特定非営利活動法人（NPO法人）ケアステーションぽかぽかと名称変更し、法人格取得。理事長着任、現在に至る  
 2001年 保育「保育ルームぽかぽか」と介護「ぽかぽかデイサービス高松センター」大家族のような融合施設を展開。現在に至る  
 2007年 練馬区議会議員選挙に初当選。現在、4期目  
 2014年 練馬区長選挙に出馬 ※次点にて惜敗

### 連絡先

練馬区高松3-24-19 2階

TEL 03-3990-3107

FAX 03-5241-9735

HP shiraishi-keiko.net

域の親類の方等に預かってもらう。かかりつけの動物病院や日頃利用しているペットホテルが、被災時でも受け入れ可能な状態なら、費用は掛かるが、預けることも含め、日頃より、お願いすることなど、相手の方と話しや相談しておくことをお勧めする。ただ、動物のためには、自宅待機が可能であれば、自宅に留まる準備をしていくことが良い。

**まとめ**・自宅がガス・電気・水道が止まっても居住可能な状態であれば自宅に留まることを第一として、避難所へ行くのは最終手段と考えていく。「地震の揺れが怖い」という理由で自宅待機が可能なのに、とりあえず避難所へ行く、という考え方はしない。

■避難拠点の環境は、自宅とは全く異なり、ペットの心身にかかる負担も相当なもの。平時のうちに避難拠点に行かないで済む方法を、いくつか用意しておくことも必要。

■近年、災害対策として事前にキャンピングカーを購入する人もいる。また趣味（アウトドア・旅行）でミニバンや軽のワンボックスを車中泊仕様になっている人も増えているが、災害対策としても有効になる。ただし、避難拠点には、駐車は不可。

■避難拠点の生活をしていく上で、動物たちがストレスとならない様、普段から、不特定多数の人たちと接触することは大事。特に、無駄吠えを少しでも少なくするために、犬であれば散歩の際に、いろいろな人や他の犬と接触する機会を作っていく。猫でも知り合いの方等にお願ひして、自宅で色々な人と接する機会を作るのも良い。



## 令和5年度予算審議終了

2月から始まった予算算審審議が終了、練馬区一般会計予算規模は**2987億543万円**、前年度比約75億円（2.6%）の増となり、「障害者の意思疎通支援の充実」「ヤングケアラー施策」「福祉系サービス事業者への物価高騰対策」なども盛り込まれた。6回目の補正には、「第2子以降の学校給食費の無償化」が組まれた。だが、課題点もあり、以下指摘をした。

- ・避難拠点運営連絡会に、男女リーダーの配置と専門者との連携を。
- ・庁内DX促進に向け、まず各部署にあるシステムの分析と精査をし、共有方法も考えていくこと。
- ・GIS機能を土木部から企画部に移動し全庁的な活用。
- ・発達障害児の生育には、こども発達支援センターと子ども家庭部との連携を。
- ・発達障害の早期発見に、統一したチェックリストの作成を。
- ・療育保育への保育環境や保育士への支援は重要。
- ・療育専門団体・保護者・保育・教育との連携を。
- ・地域包括支援センターに、GIS機能を導入し、地域ケアシステムの構築を。
- ・軽車両となる自転車に、サイドミラーの助成を。
- ・区立公園の利活用に向け、近隣との合意形成は重要。

## ▼白石けい子の考察▲

議会活動も4期15年（区長選出馬し、1年間の空白あり）続けることができた。そして、この期の集大成となるレポートに、これまで取り組んできたテーマ【防災】の一つとなる「ペット同行避難」について掲載することができ、あらためて、練馬区獣医師会に御礼を申し上げます。

コロナ禍も3年続き、これからは、区民の生活や精神面・教育など、丁寧に進めていくことが重要になる、と痛感した。だからこそ、これまでの経験値を生かし、来期も一層取り組んでいきたいと強く思った。